

演題番号：

演題名：牛の右心房の腫瘍

発表者氏名：金谷安利 井上英耶 石川喜代子 長谷川嘉子 谷庸子

発表者所属：滋賀県食肉衛生検査所

1. はじめに：牛の心臓に見られる腫瘍には牛白血病、牛の心臓血管筋種、神経鞘腫、横紋筋腫、血管腫などが挙げられる。今回、と畜検査において牛の右心房内に腫瘍を認め病理組織学的検査を行ったので、その概要を報告する。

2. 材料および方法：検体は右心房に見られた腫瘍で、平成27年11月30日に一般畜としてと畜された滋賀県産、黒毛和種、牝、143ヶ月齢の牛から採材された。腫瘍は10%中性緩衝ホルマリン溶液で固定後、定法に従いパラフィン包埋切片を作製し、ヘマトキシリン・エオジン染色およびエラスチカ・ワンギーソン染色を実施した。

3. 成績：

- (1) 生体検査所見：異常は認めなかった。
- (2) 肉眼所見：5×10×5 cm の桃色を呈する有茎性腫瘍で、表面は平滑であった。腫瘍は柔らかく容易に切断でき、断面は黄白色で光沢があった。(図1) その他の臓器・枝肉に著変は認められなかった。
- (3) 組織所見：腫瘍部には好酸性の細胞質を持つ紡錘形の細胞が密に増殖している部分とやや疎に存在している部分があった。線維性の構造が多数認められ、エラスチカ・ワンギーソン染色で赤みを帯びた黄色に染色された。密に増殖している部分では紡錘形の細胞が不規則に錯綜して束状に配列していた。核は長円形から類円形で、異型性はあまり見られなかった。
- (4) 行政処分：一部廃棄（心臓）

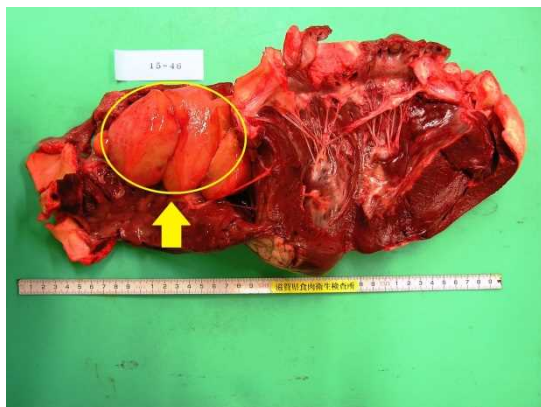


図1. 肉眼所見

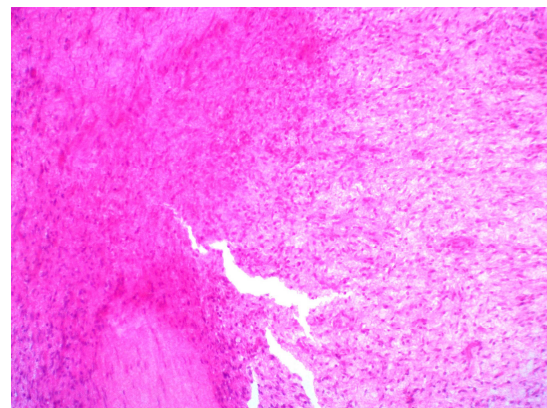


図2. 組織所見 (HE染色 中拡大)

4. 結論：病理組織学的検査で腫瘍部において見られた、細胞が密に増殖している部分と疎に存在している部分は神経鞘腫に特徴的な所見であると考えた。また、密に存在している部分で紡錘形の細胞が束状に配列している所見も、神経鞘腫によく見られる。以上のことから、本腫瘍は神経鞘腫であると診断した。